

HONTAN

図書館ボランティア「本探」が
旬の図書館情報をお知らせします



第19号
2011年6月18号

ON TAN HAPPY PIECES

今回のテーマは
「キュンとする! 甘酸っぱい! 恋愛小説」
男子も女子も、恋人のいる人もいない人も、
読書でキュン! としてみませんか?

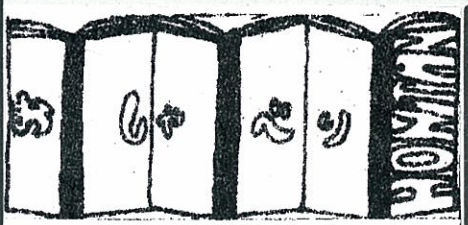
<p>花達の おすすめ よしもとばなな 913.6/Y 『High and dry (は恋)』 14歳の夕子の初恋は、年上の絵の先生だった。とバキリキュートでしあわせな恋ものがたり。</p>	<p>きゅうの おすすめ 山崎ナオコ 913.6/Y 『人のセックスを笑うな』 39歳のユリに次第に弱っていく19歳のみるめ。過激な表現だけど多分あはれる恋の話</p>	<p>空の おすすめ 豊島ミホ 913.6/T 『エバークリーン』 互いに夢を叶え10年後に再び会うと約束した2人。少し大人になった2人は...</p>
<p>珠の おすすめ 角田光代/鏡リュウジ 913.6/K 『12星座の恋物語』 各星座の恋愛傾向を元にした短編集。星座にも相性、あるものらしいです。</p>	<p>卯月の おすすめ 有川浩 913.6/A 『別冊図書館戦争II』 今回の注目は手塚&柴崎。実は主人公と同じくらい純情かも?</p>	<p>あきの おすすめ 川上弘美 913.6/K 『センセイの靴』 38歳と70代という大人の恋物語。それなのに不器用で純情な恋物語。</p>
<p>きょうの おすすめ 井原西鶴 913.52/I 『女子色五人女』 命をかけてまで、あなたと恋がしたかった。実話に基づいた5人の女性の物語。</p>	<p>とおかの おすすめ 入間人間 913.6/I 『僕の小さな規模な奇跡』 僕と彼女の小さな恋物語。誰かとの出会いも、誰かの行動も、何かと繋がってるかも?</p>	<p>Y田の おすすめ 村山由佳 913.6/M 『天使の卵』 彼女がいながらも、8歳年上の春妃に心を奪われた恭太。後に春妃が彼女の裏切りを知り...</p>
<p>N川の おすすめ 川端康成 913.6/K 『乙女の港』 昭和!女学校!上級生との疑似恋愛的友情!可憐な乙女たちに悶えるべし。</p>	<p>いとまの おすすめ 猪俣本野ばさ 913.6/T 『ハピネス』 余命一週間のロリータ彼女と僕の物語。せつなくて甘い幸せな恋。</p>	<p>なのかの おすすめ 石田衣良 913.6/I 『親指の恋人』 結末がわかるからこそ中身が甘い恋愛になるのでは?狙いすぎても引かない現代のロミジュリ。</p>



和田竜 著
『のぼうの城』
913.6/W

戦国末期、その戦いは活月にほかりと浮かび「忍城」で行われた。その時代の忍城城主、成田長親は、特別にオモなく、武芸に秀でておらず、何をやらせても失敗しが起こせない。周りには「でくのぼう」という意

味をこめて「のぼう様」と呼ばれた男。他に誇れるものといえは、民から異常なほどに「人気」があっただけ。そんな男が、かの天下人、豊臣秀吉に喧嘩を売る!
時代小説はちょっと...と敬遠しがちなあなた。とりあえず「10ページ読みましょう。そこまで頑張ったら20ページまで読みましょう。中盤まで読み進められたらこっちのものです!」ページをめくるとに暴れた「のぼう様」と、個性の強い家臣に百姓に敵軍。読み終わる頃には、きっとあなたも時代小説と魅力的な登場人物たちの虜になるはず!2012年の秋には映画公開も予定されています。一足先に原作も読んでおくと、より一層楽しめますよ。
〈きょう〉



今回のテーマは、「最近話題の作家さんって誰だ?」です。最近のブームをHONTANの会話から探ってみては?とか、卯月、花連、きょう、空、あきがおしゃべりします!

と:私か思う最近話題の作家は東川篤也さんですね。本屋大賞1位の『謎解きはディナーのあとで』(9/13.6/H)を書いた人です。本屋大賞が果て注目されてるよね。

きょう:私も東川さんですかね。しかしまだ読んでない…。図書館でも人気みたいです。

と:あとは、有川浩さんも本屋大賞が果て映画効果が今後ますます活躍しそう。個人的には『キケン』(9/13.6/A)がすく面白かったです。

卯:私もとおかの意見に一票!この人たちが

きで最近話題の～とは言えませんものね。あと、湊かなんさんも忘れずにはないでしょうか?

空:私はやはり有川さんだと思います。映画になった『阪急電車』(9/13.6/A)の原作もとても面白かったです。

花:有川さんは言わずもがなの感じもあります。今、『図書館戦争』(9/13.6/A)の文庫化、『阪急電車』映画化で話題再燃してますね。『キケン』も大女子きです。

きょう:『キケン』はこの間読みました!なんというか、あの学生特有の川というか。正直なところ、理系学生に対するイメージが変わりましたね。

あ:私も東川さんと有川さんだと思います。本屋に行ってもこの2人の作品はとても目立つ所にありますし。

花:でも…、やはり話題!っていうと映画とかのメディアミックスが絡んでくるのでしょうか。

卯:なんとなく今のブームは映像化されて人気が出てる気がする。

花:映画化関係で言えば、石城自学さんも、『ワグニーストヨトミ』(9/13.6/M)が映画化しますよね。あれは小説めっちゃ面白いですよ。大阪の人情パンサー!って感じですよ。

きょう:じゃあ、角田光代さんも『八月の虫』(9/13.6/K)の映画化で注目されているのではないのでしょうか。やはり映像化の影響は大きいですね!

花:あとは三浦しをんさん。『まほろ駅前多田便利軒』(9/13.6/M)が映画化しましたね。でも、メディアミックスとかのきっかけがなくても、みんながたたく本読んでくれたらいいのって思います。

と:確かにそうだけど、メディアミックスが本との出会いにつながるなら私は良いと思うので、そうして出会った本から同じ作者の作品、同じジャンルの作品って読書の幅を広げていくと、もっと読書が楽しくなるのでは?と思うよ。

HONTAN 雑誌の魅力を伝える Pick-up MAGAZINES

日経エンタテイメント 6月号 P38~40



フランスのある田舎町にある母

HONTAN 展示で

企画展示紹介

今回の企画展示のテーマは「大学生が主役の本」ということで、テーマに沿った著書を表示しています。自分の学生生活と比べて読むもよし、物語として楽しむもよし、己の過去を振り返ってみるもよし。多感な学生時代に思いを馳せてみてはいかがでしょうか? <珠>

今月の日経エンタテイメントでは「夏が来る、心安く映画・音楽・本」の特集を組んでおり、本部門では「今こそ読みたい!心ませるとっておきの一冊」と題して各編集者へのアンケートの結果が記載されています。不安な日々が続いていますが、読書が感じられることもあるはず。⇒多くの票を集めた一冊:『夏への扉』ロバート・A・メイラン(9/13.7/A)

娘がやって来る。母娘はチョコレートショップを開くが、今は昼食の期間。敬虔な信仰者レノの反感を買う。一方、村人たちは彼女の手柄に触れ、少しづつ心を開き始める。しかし、そのことがレノの更なる反感を買ってしまう。⇒『ショコラ』(7/78.72/S) <Y田>



コラム 本の探力

「title」
ます。例えば、夏目漱石の「こころ」の英訳版タイトルはそのまま「Kokoro」。また、阪神大震災の影響を受け発表した村上春樹の『神の子たち』は「After the Quake」と訳されています。他の作品も探してみませんか? ⇒「After the Quake」村上春樹著、ジェイル・ビン訳(9/13.6/Mu) 一般図書

海外文学が日本で出版されているように、日本の小説も海外で出版されています。今回のコラムではタイトルの英訳を紹介したいと思



前回の編集後記もお知らせした通り、今月号からHONTAN新メンバーが幾人か登場しました。きょう、あき、空、Y田の4人です。旧メンバーもども、これからよろしくおねがいします!! <とおか>